

人と自然と文化にやさしい地域づくり

# 山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

# 6

令和3年 No.1312



令和2年度 第73回山口県学校美術展 推奨作品  
「坂道と花」  
下関市立東部中学校 1年（受賞時） 木田 名南

## ■「横のつながり」をつくる

岐山地区コミュニティ推進協議会

事務局 坂根 美音

## ■伝統を守り 伝える

有限会社 ひわだや 代表者 佐々木 真

## ■新たな職務を担う【校長】

防府市立華城小学校 校長 荒瀬 淳子

山陽小野田市立高泊小学校

校長 榎 英一

阿武町立阿武中学校 校長 原田 隆史

下関市立菊川中学校 校長 石川 彰

## ■新たな職務に就いて【教頭】

岩国市立杭名小学校

教頭 山本 和利

光市立東荷小学校 教頭 横瀬 理恵

山口市立名田島小学校 教頭 香月由美子

下松市立下松中学校 教頭 山口 英司

## ■ご案内



## あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち



一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykjoikuk.or.jp> E-mail [ykjoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykjoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



# 「横のつながり」をつくる

「令和2年度学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰」受賞団体をご紹介します。



## 子どもの見守り活動で

## 地域の和を広げよう

岐阜地区コミュニティ推進協議会

事務局 坂根美音



岐阜地区コミュニティ推進協議会

岐山地区は、周南市の中心部北に位置し、幼・小・中・高の学校教育施設、文化会館・美術博物館・市民センターの社会教育施設、動物園や警察署など、多くの公共施設があり、また、江戸時代に毛利家徳山藩として約200年間藩政が行われた歴史をうかがい知ることができ、史跡も多く残っている地区です。ここでは、子どもたちの見守りに関する活動について、紹介します。

### 地域の子どもへのあいさつ運動

岐山地区コミュニティ

ティ推進協議会は、昭和56年10月18日に設立され、当初から「青少年育成部」では、月初めの登校時、小学校の門（2か所）であいさつ運動を主にした立哨を継続実施しています。この部会には地区の8団体（小中学校のPTAを含む）の代表者が所属しているの、年に2回の会議では、子どもたちの様子について、色々な角度・視点からの気づきを集約できるという利点があります。



あいさつ立哨

### 地域の子どもを見守る活動

平成17年ごろ、児童に関わる事件が下校時に相次ぎ、

周南市の「安心安全まちづくり条例」施行（平成18年4月）に合わせ、6月には「岐山地区子ども見守り隊」を立ち上げました。これは、地域住民総ぐるみで子どもの安全を確保することを目的とした取組です。12団体（前出に加え、幼稚園の保護者会を含む4団体）所属の方や各自治会（自治会数52）を通して参加をお願いしたところ、総勢約350名の地域住民の皆さんが見守り隊員として活動して下さることになり、心強かったです。すでに実施していた朝のあいさつ立哨や交通安全立哨とは別に、見守り隊は、特に場所や日時を指定せず、「歩きながらの見守り」という趣旨でウォーキング、犬の散歩、買い物等、外出時にウォークパトロールバンドの着用をお願いし、地域全体で、犯罪の抑止力につながる見守り体制を整えました。その後、地区内の小地域で、見守り隊員を取りまとめたいと考え、「安心・安全部」を設けました。

### ひまわりプロジェクト

平成26年度から「ひまわり・見まもり・安心きさん」をキャッチフレーズとして、地区住民にミニひまわりの種を配布し、地区内をひまわりの花でいっぱいにするプロジェクトを開始しました。合わせて、地区の皆さんの繋がりの輪が広がることを願って、ひまわりの花に関する「フォトコンテスト」と「標語募集」を企画しました。プロジェクトは、3年間で終了しましたが、現在も、小・中学校を始め地区内の市登録花壇グループには、ミニひまわりの種を配付し、見守りのシンボルとして定着しています。

### コミュニティ・スクールと見守り活動

さて、ご存知のとおり、山口県は現在コミュニティ・スクール100%であり、見守り隊員には、校外活動での子どもたちの見守りとして参加依頼があります。例えば、4年生の「安全マップづくり」で、通学路を中心に校区内の安全確認探検をする際、それぞれのグループに付き添います。子どもたちが安全に探検できるように配慮するとともに、本来の目的である防災防犯上の課題を子どもたちと考えながら、地域を知ってふるさとに愛着を持つてほしいという願いも伝えています。

また、徳山動物園内で実施されるクイズラリー（全校生徒が縦割り班で参加）や「引き渡し訓練」の見守りにも参加しています。

年度始めの「対面式」では見守り隊員の顔と名前を知ってもらい、年度末の「恩返しの日」では、子どもたちの活動に関わった地域の人たちが招待され、感謝の気持ちを含めた出し物を学年別に発表してくれたり、子どもたち一人ひとりの言葉が書かれたメダルや手紙をもらいます。不審者事案が多い現状では、子どもたちと親しく深い繋がりを築くことが、見守り活動をする上での基本であると考えています。

### 顔が見える繋がりを目指して

発足当時から比較すると、見守り隊員は人数も減少、高齢化し、地区全体を網羅していないのが現状です。今後も参加の呼びかけを継続し、連携を深めるためのネットワークを構築していくとともに、コロナ禍だからこそ、顔が見える繋がりを工夫していきたいと思えます。



平成30年度 恩返しの日

「有限会社ひわだや」の代表佐々木真さんは山口県内唯一の檜皮葺師。天保時代（1830年代）から続く「ひわだや」を平成6年に法人化。千年以上の歴史があり、屋根技術の最高峰といわれる檜皮葺。その伝統建築文化を守り伝えています。佐々木さんにお話を伺いました。



有限会社 ひわだや  
代表者 佐々木 真

Q: 「ひわだや」を継ぎ、檜皮葺師になろうと思われた理由、きっかけはどんなことでしょうか。

特に、やりたい仕事があつたわけではありません。この家業に生まれたため、家族だけでなく、宮司さんなど檜皮葺に関係する方々からの「後を継ぐいでほしい」という期待感や雰囲気を感じ、その期待に応えようと思いました。高校を卒業し、兵庫県の師匠に弟子入り。足場組みから撤去まで、現場の仕事を行いました。2年後、兵庫県の研修所で社寺建築の歴史や檜皮採取等を学びました。

Q: これまで印象に残っている仕事を教えてください。

平成22年の山口市龍福寺本堂の檜皮葺です。通常は檜皮葺の葺き替えの作業がほとんどですが、龍福寺は瓦葺きであったため、屋根の形を決めることから工事を行いました。後世に残る仕事をする事ができるとうれしく思いました。



檜皮葺の模型



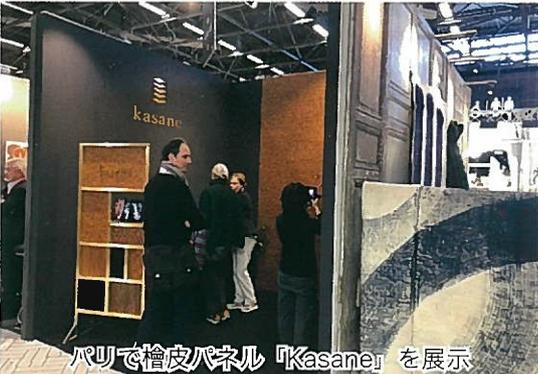
ところが、鳥根県の出雲



大社と京都府の清水寺の改修工事が重なり、檜皮が不足、このため、昼は仕事、夜はトラックで関西まで檜皮を取りに行く生活を繰り返しました。だんだんと材料の檜皮は入手が困難となり、工事が1ヵ月間ストップ、価格も上昇し、経営を圧迫しました。

翌年、龍福寺の姿を見たときは、これまでのいろいろなことが思い出され、感動で体が震えました。Q: 檜皮葺の魅力、やりがいとはどのようなものですか。また、海外ではどのような受け止めをされ、紹介されているのでしょうか。

檜皮葺の魅力は反りや曲線のといった見た目の美しさと自然素材を使っているのと同じ物が無いことです。檜の皮は一枚一枚違っていますので、どこに使うかを考えています。うまくいかないときは、めくってやり直します。こうした工夫がやりがいです。檜皮葺は一日一坪、材料づくり7日、材料採取2週間と手間と時間がかかりますが、葺いた後に、一般の方々からきれいだねと言われるととてもうれしく、やりがいになります。



パリで檜皮パネル「Kasane」を展示

海外では、木の皮で葺くことは大変めずらしいことだそうで、デンマークの建

築雑誌「ARKITEKTEN」に取り上げられたこともあります。

自然素材で葺く、そして古くなる土に帰るゴミにはならないということが海外で高く評価されています。昨年、フランス・パリのメゾン・エ・オブジェで檜皮パネル「Kasane」を展示しました。高い評価をいただき、檜皮パネル「Kasane」は、某有名ブランドの商業施設でも採用されています。

Q: 今後の檜皮葺師としての、また、会社の展望を聞かせて下さい。

「和の伝統文化継承事業」として檜皮葺の数寄屋門の展示、檜皮を使ったコースターやリースの作成、素材の展示会等を開催し、檜皮を感じ、関心を持ってもらうようしています。

最近はお自身も茶道をしています。茶道では、焼き物、和菓子、花、掛け軸、和服などの様々な「和」が関わり合っていて、わたし自身も萩焼にも興味を持ちました。そうしますと、建築家の方や陶芸家の方とも交流ができ、フランスに行ってお茶を点てるお手伝いをするのもできました。こうしたつながりができることで、檜皮葺への関心も広がりました。「和」の文化全体が発展しないと檜皮葺も発展しないと思うようになりました。

これからは、新しいデザイナーが考えたことを檜皮で表現するなど、生活の一部に檜皮葺を入れことも考えて行きたいです。檜皮を含めた和の文化を支えてくれる人を増やしたいと思っています。



トラクに入る茶室(パリ市内)

学校っておもしろい



防府市立華城小学校

校長 荒瀬 淳子

かんがえるのって おもしろい  
どこか とおくへ いくみたい  
しらないけしきが みえてきて  
そのあおきが ふかくなる

谷川俊太郎さんの詩を音読する5年生の楽しげな声が聞こえてきました。教室で学んでいる子どもたちを見ると、思わず微笑が溢れます。

4月から私の校長1年生が始まりました。戸惑うことも多い毎日ですが、素直で元気いっぱいの子どもの姿に、この詩にあるような「学校で学ぶ楽しさ」を実感しています。校区の広い本校は7時前から歩いて登校する児童もいます。毎朝、毎夕、子どもたちを見守ってくださる地域の方々の温かなまなざしがあります。上級生が下級生の歩幅を考えて歩いてくる姿があります。また、高校生、中学生となった本校卒業生たちがさわやかに挨拶する姿も頼もしく感じます。その姿は小学生にとつての憧れの存在なのでしょう。

なかよくするって ふしぎだね  
けんかするの いみたくない  
しらないきもちが かかれてて  
まえよりもつとすきになる

自分の気持ちを言葉にすることは大人でも難しいことです。そして相手に伝えることも簡単ではありません



中学生との挨拶運動

ん。まだまだ語彙が少なく、自分の気持ちを言語化することが苦手な段階では、もどかしい思いをすることがあるかもしれません。言葉は自己を理解し、他者とつながる鍵です。子どもたちに多くの言葉と出会わせ、言葉をもたせたいと思っています。そのような言語環境を整えることから始めています。子どもたちがしなやかに未来を切り拓いていくために学校が為すべきことは何か？。地域の教育力の高さを土台に、学校と共に歩んでくださる保護者の方、真摯に子どもたちに向き合う教職員、恵まれたご縁に感謝をしながら、自分自身もしっかり学び続けます。

日々是好日



山陽小野田市立高泊小学校

校長 椿 英一

春風に闘志抱きて丘に立つ  
赴任地である高泊小学校は、周防灘に突出し、寛永期に干拓された広大な開作地を臨む高台に建つ。虚子の句を口ずさむには絶好の条件を有している。実際、始業式の話の中にこの句を引用し、子どもたちの高ぶる気持ちを表現した。

翻って自分自身はどうであろう。コロナ対応、地域連携、タブレット型端末の活用、学力向上、人材育成と学校の取り組みむべき課題に怯みこそすれ、闘志をもって臨もうとしているであろうか。春風が校長室のブラインドをすり抜ける度、自問自答を繰り返す。そんな時はやりかけの仕事を映すパソコンをたたみ、校区内巡視と断つてふらりと外へ出かける。必要書類を忘れてきたにも関わらずおせっかいなほど親切に関係各所へ連絡し、通帳名義を変更してくれる郵便局長。畑仕事の手を止めて滔々と地名の謂れを話し出す古老。花壇の美しさに感心していると、いつでもお茶を飲みにきてくれと庭のテーブルを指さす老婦人。実に気持ちの良い人々との出会いが待っている。ある意味よそ者であるはずの私に親切である。もちろん、校内で出会う子どもたちも然り。「校長先生、絶好調」と調子よく声をか



高泊、初夏の風物詩 児童による茶摘み



「つながり」を大切に

阿武町立阿武中学校  
校長 原田 隆史

美しい海と豊かな緑の懷に抱かれ、人情に厚い阿武町にある本校は、宇田中学校と奈古中学校の先行統合により設立され、平成28年3月の福賀中学校閉校により、完全統合された歴史をもつ学校である。

町内唯一の中学校で、阿武小学校とは一つの廊下でつながっている。さらに、萩高校奈古分校とも隣接しており、学校間の連携が図りやすい条件が整っている。

また、現在阿武町内2小学校1中学校では、「いきいきと未来に輝く阿武つ子の育成」という共通目標に向けて、「ぎづく」「きめる」「かかわる」「やりぬく」の4つの力をあらゆる場面を通して育成するための取組を進めている。そのため、校種間の枠を超えて授業交流を行ったり、合同で行事を開催したりするなど、9年間の育ちを見通した教育活動づくりも積極的に行われてきた。

4月当初は緊張感を抱えながら、初めて校長として阿武中学校に着任したが、朝早くから花壇の手入れをしていたり、朝早くから花壇の手入れをしてくださったりする地域のボランティアの方々とお話しする中で、温かい気持ちになると同時に、感謝の気持ちで一杯になってきた。生徒数

こそ多くはないが、町からのバックアップも手厚く、地域の方に学校を支えていただいていることが実感として伝わってくる。学校はまさに様々な「つながり」で成り立っているのだと感じられる。

そこで、今年度は「つながりを大切にすること」をテーマとして、これまで積み上げられてきた諸先生方の実践を生かしながら、「チーム阿武中で高め合う」をキーワードに、生徒も、保護者も、地域の方々も、教職員も、集ってよかったと思えるような阿武中学校をみんなで創っていきたくと考えている。



地域の方の支えで育つ花々



『感』を大切に…

下関市立菊川中学校  
校長 石川 彰

下関市立菊川中学校は、豊かな田園地帯が広がる菊川盆地に位置しています。地域の方々を支えられ、本校は一昨年度開校70周年を迎えました。旧菊川町時代から続く歴史や伝統が現在も残っており、地域との連携がさかんな学校です。

本校の「校訓（めざす生徒像）」の一つに「郷土愛」があります。「故郷を愛し、故郷に学び、心身の健やかな成長を遂げる生徒」というものです。着任後、地域の方々とお話をする中で、郷土菊川には多くの「宝」があることを実感しました。産業、資源、施設、文化財…等、すべて貴



校訓（郷土愛 自主自律 奉仕）が掲げられた校舎

重な「宝」ですが、最も大きな「宝」は、菊川の人々そのものだと感じました。地域には学校に協力してくださる方が多くおられ、感謝の念に堪えません。また、目の前の子どもたち一人ひとりのことを親身になって考え、支えてくれている本校の教職員も大きな「宝」です。私に与えられた使命は、こうした地域の「宝」を十分に活かしつつ、学びが好きな子どもたちの育成を図っていくことだと考えています。とはいえ現在は、自らの職務にやりがいを感じつつも、諸先輩方が築いてこられた伝統とその職責の重さによる引き締まる思いでいっぱいです。

4月8日の始業式・入学式を終え、本校でもいわゆる日常生活がスタートしています。目の前で生き生きと活動する子どもたちの姿を見て、今年度の私のテーマを『感』を大切に生きる』と決めました。「感」性を研ぎ澄まし（心を磨き続け）、常に敏「感」に（変化を見逃さない）、周囲への「感」謝の気持ちを忘れず（本校の本年度の重点目標「ありがとうの声があふれる学校づくり」）、ともに「感」動を味わう（子どもたちや教職員、学校を支えてくださる方々とともに）。今の気持ちを忘れず、精一杯取り組みたいと考えています。

杭名の魅力 次々と発見中



岩国市立杭名小学校

教頭 山本 和利

「お互いに顔を知り、つながりを深めたい」という育友会会長さんの言葉をきっかけに、本年度は、第1回目の参観日に、児童、保護者、学校運営協議会委員、教職員のふれあい活動を行った。コロナ禍で、制限や工夫が必要な折だが、育友会役員の皆さんのアイデアを生かし、当日は和やかな雰囲気の中で、充実した活動を行うことができた。

4月末には、ふれあい遠足に出かけ、目的地で入学してきた1年生を歓迎する会を開くとともに、行き帰りには、子ども110番の家にお礼を言ったり、今後は地域の方から伝統芸能について説明を聞いたりする活動も企画している。また今年度は、中学生と合同での学習を展開していく予定もある。「低学年の保護者は不安なことが多いと思うから、気軽に相談できる場を設定しよう」「地域に、メキシコの文化に詳しい方がおられて、…。保護者や学校運営協議会の皆さんからの前向きな提案や情報がいくつも出てくる。親世代は、仕事が忙しく、学校運営協議会や学校支援ボランティアの後継が難しいなどという話をよく聞くが、ここ杭名は、そこに住むすべての世代がつながっていると感じている。微力な

から自分もその一員として、ひとづくり・まちづくりに貢献していきたいと強く思っている。

4月に着任し、慣れないことばかりで心の余裕がなくなることもあるが、そんなときは学校から徒歩3分、広い川原においてみる。大きな錦川、遠くから見下ろす蓮華山。豊かな景色が、「大らかな気持ちを持って」と教えてくれる。そして、「よし、やるか」と職員室に戻るのである。



学校の近くから見える景色

「東荷」での新たなスタート



光市立東荷小学校

教頭 横瀬 理恵

新年度を迎えて2週間が過ぎた。忙しい毎日ではあるが、私は今、「東荷」という地域にとっても魅力を感じている。着任の挨拶で地域を回った際、ある地域の方が、「東荷は、学校と地域が一体となって子どもたちを育てている」と言われた。学校側が、「地域と一体となつて」と言っているのはよく聞くが、地域の方からまずこの言葉が出てきたことに、私は地域の学校への熱い思いを感じた。

東荷小学校は、全校児童数18名の小規模校だが、子どもたちはいつも生き生きとしている。朝、子どもたちを出迎えに校門を出ると、遠くから私を見つけ「教頭先生、おはようございます」と元気な挨拶をし、校門に入る前も、ふり返つて一緒に歩いて来てくださった見守り隊の方々「行ってきます」と元気な挨拶をする。温かく爽やかな毎朝の光景である。そして「めぎせ千周超人」を学校のチャレンジ目標の一つとし、毎日運動場を走っている。学習面、生活面でも一人ひとりが目標をもって取り組んでいる姿は、さすが東荷っ子である。

東荷は、伊藤博文公の生誕地である。そのため、「人は誠実でなくては何事も成就しない。誠実とは自分

の従事している仕事に対して親切なことである」という伊藤公の遺訓から、本校は「誠実・親切」を校訓としている。私が大切にしている言葉は「誠実」である。自分、人、仕事に誠実でありたい、そう思つて教員生活を送つてきた。だからこそ、伊藤公の遺訓、そして校訓に出あい、自分の置かれている立場に身の引き締まる思いがした。

私も教頭という立場で、教職員、家庭、地域と連携を取りながら、「東荷で大切に育てられている子どもたち」の成長をしっかりと支えていきたいと思う。



めぎせ1000周超人（朝のかけ足）



つながりを大切に  
みんなが輝く学校をめざして

山口市立名田島小学校  
教頭 香月 由美子

いつもの春とは比べものにならないくらい緊張してスタートした4月。まず、校門の横の大きなけやきの木ときれいに整備された芝生のグラウンドが、春風とともに迎えてくれた。そして、校舎に入ると、先生方が笑顔で温かく迎えてくださった。さらに、「名田島小学校に、ようおいでになりました」「何でも言ってくださいお手伝いしますよ」「名田島の地図やら資料を持ってきました。これで、名田島のことがかいとは分かりやすいのう」と地域の方が声をかけてくださった。「なんて素敵な学校・地域なのだろう」。これが着任してすぐの感想である。

さて、教頭として自分に与えられたことは何なのか、そして自分のできることは何なのか。それは「つながり」ことであると考える。名田島小学校には、日々、頑張っている子どもたちもいる。目的意識をもって熱心に指導する先生方がいる。質の高い教育ができるように支援して下さる保護者や地域の方々がいらつしやる。私は、それぞれのよさや思いをつなぎ、協働体制をさらに強めていきたい。名田島小学校の子どもたち一人ひとりが輝き、そして子どもたちを支える大人や地域がますます輝くように。



きれいに整備された芝生のグラウンド



自らなせ  
協力せよ 気魄をもって

下松市立下松中学校  
教頭 山口 英司

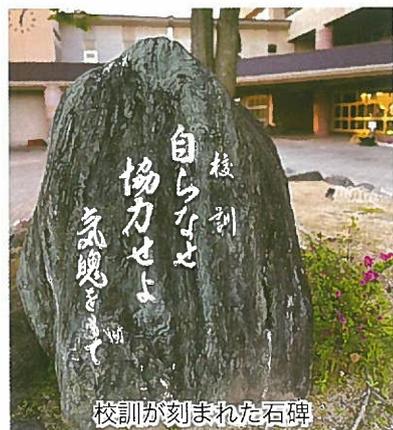
その昔、大きな星が松の木に降り

てきて7日7夜輝いたという降星伝説を名前の由来にもつ下松市の南側に位置する本校は、生徒数396名の中規模校である。

下松市は、地域とともにある学校づくりが積極的に進められており、本校では現校長のもと、学校運営協議会、職員研修組織、PTA組織を「知・徳・体」の3部会に分け、それぞれが横断的に連携を取りながら子どもたちの学びを支える新たな組織づくりがなされている。それとともに、市から配置されたCSコーディネーターが、学校と地域の橋渡し役として意欲的に活動されており、よりスムーズな組織運営の一翼を担っている。

着任当日、校長からこれらの説明を受けながら、私は、新たな役割での勤務となるこの地で、これまで以上に職責を果たさなければならぬという強い使命感に駆られた。それとともに、職員一人ひとりのお名前もおぼつかないばかりか、教頭としてすべき仕事について、先が全く見えていない不安を抱えながらのスタートとなった。

「教頭は、職員室の担任として常に周囲に目を配り、細かい部分に気を配りながら先生方としっかりコミュニケーションをとることが重要」着任するまではそんなことを思い描いていたにもかかわらず、いざ学校が始まってみると周りに目を配る余裕などなく、与えられた仕事を場当たり的にこなすことで精一杯、担任という名にはほど遠い日々が続いている。「自らなせ 協力せよ 気魄をもって」我が校の校訓であるこの3つの言葉に自分自身を奮起させ、一刻も早く胸を張って「教頭」という役職名を名乗ることができるよう、日々精進していきたいと考えている。



校訓が刻まれた石碑

## 第33回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

### 1 趣 旨

人や自然、文化とのかかわりを独自の心象でとらえた金子みすゞの心が蘇るような感性豊かな童謡詩・自由詩を募集します。

- 2 募集部門 (1) 小学生の部  
(2) 中学生の部  
(3) 高校生・一般の部

### 3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のもので一人2編までとします。  
(2) 応募作品は、A4判の所定の用紙に縦書きとし、1編が2枚以上の場合は右上をとじてください。  
(3) 応募用紙に①募集部門 ②住所 ③電話番号 ④氏名 ⑤題名を明記してください。

児童生徒は、学校名・学年、氏名、題名のみ記入してください。

\* 応募用紙の様式を、冊子「山口県教育会助成申請と作品応募等の手引き」と山口県教育会ホームページに掲載しています。

\* 応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。

- 4 送付先 一般財団法人山口県教育会  
〒753-0072 山口市大手町2-18

- 5 応募締切 令和3年9月6日(月)

### 6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞)：全部門から1編  
優 秀(山口県教育会長賞)：各部門ごと1編  
佳 作：各部門ごと数編  
学校賞：全応募校から1校

### 7 審査結果

- (1) 令和3年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。  
(2) 最優秀・優秀受賞者は、令和3年10月30日(土)に下関市で開催される「第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

## 第12回「わたしの志」作文募集

### 1 趣 旨

将来を担う児童生徒が「わたしの志」をもって明日を拓く力を身につけ、たくましく生き抜いていこうとする作文を募集します。

- 2 募集部門  
(1) 小学生の部(4年生以上) 1,200字以内  
(2) 中学生の部 2,000字以内  
(3) 高校生の部 2,000字以内

### 3 募集要領

- (1) 作品は、未発表のものに限ります。  
(2) 作文用紙の1行目に題名、2行目に学校名・学年、3行目に氏名を明記し、4行目から本文を書いてください。

\* 内容に添った題名を付けてください。

\* 応募作品の著作権は主催者に帰属するものとし、原稿は返却しません。

\* 100作品以上応募される場合は、事前に山口県教育会の担当にご相談ください。

- 4 送付先 一般財団法人山口県教育会  
〒753-0072 山口市大手町2-18

- 5 応募締切 令和3年9月6日(月)

### 6 表 彰

最優秀(山口県教育委員会教育長賞)：全部門から1編  
優 秀(山口県教育会長賞)：各部門ごと1編  
優 秀(松風会理事長賞)：全部門から1編  
佳 作：各部門ごと数編

### 7 審査結果

- (1) 令和3年10月中旬に受賞者へ通知します。併せて山口県教育会の情報紙「山口県教育」とホームページ等に掲載します。  
(2) 最優秀・優秀受賞者は、令和3年10月30日(土)に下関市で開催される「第20回やまぐち教育の日・第48回教育県民大会」で表彰し、最優秀受賞者は作品の朗読をします。

### お礼報告

水谷 節子様(山口)

山口県教育会の発展にご尽力をいただきました。ありがとうございました。

### 第2回支部長・事務局長会

山口県教育会館  
3月5日(火)

### 報告

- 令和3年度活動方針・事業計画・収支予算について
- 第74回日本連合教育会研究会山口大会について

### 協議・連絡

- 支部活動の状況について
- 支部活動から「金子みすゞ祈り」について前編カラー版としエピソードを盛り込むなどとして、3回目の改訂をしたことを、また、周南熊毛支部からは、地域の小中学校への花の苗の提供や草刈り作業など「花いっぱい事業」の紹介をしていただきました。



花いっぱい事業(高水小花壇)

- 令和2年度教育研究・地域活動等助成事業について
- 令和2年度会員状況について
- 阿西・萩支部が合併し、「萩支部」となり、支部数は26となりました。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、8月10日(火)・11日(水)に開催を予定していましたが、「第11回青年教師の集い」を中止させて頂きました。

- 山口県教育会HPに「令和3年度助成申請と作品募集等の手引き」にある各種様式や現職研修助成事業、地域活性化活動助成事業の活動報告書、お知らせ等を掲載していますのでご覧下さい。

### 【お詫びと訂正】

情報紙「山口県教育」4月号に誤りがありました。謹んでお詫びと訂正を申し上げます。

5ページ上「令和2年度教育研究・地域活動等助成事業の実績」

誤↓支部活動振興助成事業 27,000円  
正↓支部活動振興助成事業 527,000円